

# 困窮世帯にエアコン設置

## 県内支援団体ひとり親家庭対象

新型コロナウイルス禍を受けて発足した県フードバンク連絡協議会（事務局・三条市）は3日、これまでの食料品支援に加え、新たにエアコン支援事業を始めると発表した。「子どもの未来応援プロジェクト」の一環。経済的に困難な状況にある県内のひとり親家庭100世帯を対象に、エアコン100台を無償で設置する。

協議会は今春、新潟市や新潟市など県内11組織が連携して発足。5月から緊急プロジェクトをスタートし、生活の苦しさが増したひとり親家庭などへの食料品支援を行ってきた。この2カ月間の支援件数は、延べ約2千件に上る。

エアコン支援事業は、冷

暖房機器メーカーのコロナ（三条市）が協力。6畳用80台、10畳用20台を寄付した。

対象となるのは、18歳以下の子がいる県内のひとり親家庭。募集期間は31日まで。暑い時期を迎えていることから、期間中1週間ごとに、エアコンが1台もない家庭を最優先とする。乳幼児や受験生がいるといった審査基準に基づき採択を決定し、取り付け作業に入る。協議会のウェブサイトで募集要項、応募様式を公開している。

協議会の高見優会長は「困っている家庭が、猛暑で健康を壊すことがないようにしたい。しっかりと生活が維持できるように支援を行っていききたい」と話した。

た。問い合わせは県フードバンク連絡協議会事務局、0256(34)8960（月～金の午前9時～午後6時）。

# 困窮の留学生に食料配布

新潟工業短大 NPO法人など支援



列を作り、食料品を受け取る新潟工業短大の留学生＝新潟市西区

## 新型

### ウイルス

新型コロナウイルスの影響でアルバイト収入などが減り困窮している留学生を支援するため、新潟市西区の新潟工業短大で3日、食料品の無償配布があった。

自動車整備などを学ぶ同短大は、生徒の半数近くを留学生が占める。新型ウイルスの感染拡大によりバイト代が減ったり、母国から

飲み物やパン、野菜などを受け取った留学生105人はうれしそうに様子だった。

佐藤学長は「留学生への支援が広がりありがたい」と感謝した。フードバンクにいがたの真木英明さん(72)は「困っている時はお互いさま。今後も支援を続

の送金が減ったりするなど経済的に困窮しているという相談が相次ぎ、4月に短大独自で米5kgを配布した。今回の配布は「自助だけでは限界がある」として佐藤孝学長(67)が西区社会福祉協議会に協力を呼び掛け、NPO法人フードバンクにいがたの支援を受けて実現した。

スリランカ出身の1年生、タラカ・ゴラガンタケさん(23)は「アルバイト代が半分減った。もらったジャガイモを使ってカレーを作ります」と話した。新潟中央高校の生徒も配布を手伝った。

けていく」と語った。フードバンクにいがたは企業、個人から食料品の寄付を受け付けている。問い合わせは真木さん、025(384)4466（平日午前10時～午後4時）。